

1 チームワークと コミュニケーション能力が高まる

制作に関わるあらゆる役割を分担し、チームで協力してひとつの作品をつくり上げる経験ができます。その過程で、それぞれの立場の多様な意見を調整するコミュニケーション力など、共通の目標に向かって取り組むために必要な力が向上します。

2 創造的思考力や表現力が磨かれる

ドラマ映像制作の体験から、独創的なアイデアや柔軟に着想する力が養われます。また、視覚的な表現手段を学び、自分の考えを効果的に伝える能力が磨かれていきます。

4 探究学習と演劇教育で相乗効果が生まれる

演劇教育を探究学習として実施することができます。生徒主体でドラマをつくりあげる取り組みが、生徒の探究心を高めるとともに、演劇教育との相乗効果によって、生徒ひとりひとりの成長やより深い学びにつながります。

5 実用的な技術を学ぶ機会になる

撮影や編集作業を通じて機材やデバイス、ソフトウェアといったツールの活用能力が高まります。新しい技術に関心を向けたり、機能を理解して必要に応じて使いこなすなどの実践力を伸ばします。

Learning effects of this work

“ドラマワーク映像編”に 取り組むことで、 こんな効果があります。

この取り組みで、どんなことができるのか、
どんな力が身につくのか、代表的なものをご紹介します。

3 実社会で通用するスキルを 実践的にトレーニングできる

企画づくりから作品公開までの一連のプロセスで直面するさまざまな課題に対応し、実践を重ねながら課題解決力を鍛え、実社会で必要とされる企画力、マネジメント力といった多様なスキルをトレーニングすることができます。

6 自己表現力・自己肯定力が身につく

自分の考えや感情を映像作品として表現する体験によって、自己表現力が育われます。作品完成と上映を通じて得た達成感が自信となり、自己肯定感も身につきます。

TWICE PLAN

お問い合わせ

株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町1-11-804

Tel 03-6861-3553/Fax 03-6861-3554

Mail info@twiceresearch.jp

URL <https://twiceresearch.jp>



program.twiceplan.jp



TWICE PLAN DRAMA WORK

“ドラマ”ワーク 映像編

「クラスでひとつのドラマ映像をつくろう」
——ドラマづくりの魅力を知る“オリジナルドラマ映像制作”体験



クラス全員で協力して、ひとつのドラマをつくり上げるワークです。

自分たちのつくりたいストーリーを話し合い、役割を分担。企画から上映までに必要な工程を積み重ね、オリジナルの映像作品を制作します。

【身につく力】

チームワーク力、コミュニケーション力、
課題発見・解決力、構成力、文章作成力、
自己表現力、情報収集・活用力、
セルフマネジメント力

“ドラマ”ワーク

ドラマづくりを体験し、 社会につながる力を磨く

ドラマ映像制作における多様な課題に取り組みながら、思考力・判断力、表現力を育みます。プロと同じように、脚本、演出、キャストをはじめ、プロデューサー、撮影、照明、録音、美術、広報など、映像作品づくりのさまざまな役割を分担。ひとつのドラマをつくりあげていく仲間たちとの関わりのなかから、社会で役立つたくさんの力を磨きます。



2



作品決定、部門と役割を決める

クラスでひとつの“ストーリー”を選ぶ

各チームがつくったあらすじを聞いて、全員の投票でクラスで上演するドラマの企画を決定。プロデューサー、脚本、演出、スタッフ、キャストを決めて部門ごとに準備をはじめます。



1

チームづくり、企画づくり

まずはみんなで
ドラマのことを知る



3～4人のチームを結成し、リーダーを決めて、チーム名や意気込みを考えます。そして、アイスブレイクで「自分の好きなドラマ」の魅力やストーリーなどについて話し合ったあと、自分たちでドラマのあらすじをつくります。



4

撮影、編集、仕上げ

作品を創造的に
仕上げていく

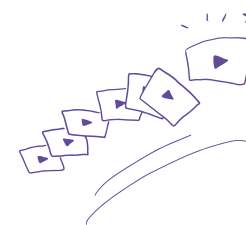


撮影場所を確認して、カメラアングルやキャストの動きを決めて撮影を開始。追加撮影、BGMなども検討しながら撮り進め、編集します。ひとつにつないだら、全員で映像を見て改善点を話し合い、どう直すかを考えて仕上げていきます。

5

作品公開

自分たちのドラマを、
観客に届ける



いよいよ上映会の当日。プロデューサーを中心にクラス一丸となって、作品紹介や舞台挨拶などの準備を整えてお客さんを迎え、一緒に作品を観て自分たちも存分に楽しめます。

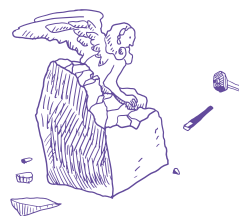


3

作品づくり、キャスティング

チームの力を結集して、作品を形にする

脚本部が完成させた台本をもとに、監督と撮影スタッフがカット割りを考えます。プロデューサーは脚本部、演出部と一緒に配役を決め、全体の進捗状況を管理。各部門が連携して具体的なイメージを描きながら準備を進めます。



6

振り返り、まとめ

自分たちの成長を振り返る

取り組みを振り返って、チームで印象に残っていることや感想などを話し合います。最後はひとりひとりレポートを書いて終了です。



ワークの流れ

12のステップにそって進行します。クラスで、プロデューサー、脚本、演出、スタッフ、キャストなどの役割を分担して、オリジナルの映像作品を制作。最後に活動を振り返ります。取り組み時間数は学校の状況に合わせて柔軟に設定することが可能です。
(※1ステップの目安は最小45分です)

“ドラマ”ワーク

- 1 最初の準備
- 2 企画づくり
- 3 作品決定
- 4 役割決定
- 5 作品をつくる①
- 6 作品をつくる②
- 7 作品を動かす①
- 8 作品を動かす②
- 9 作品を仕上げる①
- 10 作品を仕上げる②
- 11 “作品公開”！
- 12 振り返り

プロの技術から学ぶ機会

当事者としての目的を持って取り組むとき、プロの技術・知識からは、とても多くの学びを得ることができます。直接話を聞くだけでなく、文献やネットの情報からも有効なヒントが見つかることを体験。社会で本当に役立つ実践的な技術を実感します。

